

## 情報化社会に生きる

経済学部教授 原田三喜雄

最近レコード・録音テープ・VTRなどの売れ行きが目立ち、書籍も漫画・ムック類の比率が高いという。これらを現代文明の生態学的興味からいま考えてみたい。

これまで開発された優れた情報としての知識の多くは、文字の形での言語記述として蓄積され、私達はこれを読書という形で消化しひろく役立ててきた。それゆえ読書は、これまでの学習の主要形式といえた。しかるに今日では、学習のほか伝達・記録・娯楽の新しい形態として、音声・映像・記号などによる情報が増大している。報道の迅速性では、新聞はテレビにはかなわない。情報の記録密度では、文字表現は映像には及ばない。これまでの言語的記述のもつ論理的思考、想像性、抽象的表現などの諸利点を活用し、これに新しい情報形態の利点を相互補完的に組み合わせる利用していくのが望ましい。これは人間の知能発達にかんする大脳生理学の研究成果とも照合する。

上述のように情報形態の多様化をもたらしたのは、新しい通信媒体の発達と情報処理技術の開発利用のためであろうが、その背後には私達の生活水準の上昇と生活様式の変化をも考えられる。今日の私達はいわゆる衣食住のほか、いかに多量の広義における情報・知識一読書、テレビ・ラジオ視聴、音楽・美術・スポーツの観賞などを消費していることであろうか。この趨勢は、所得と余暇の増大とともにますます助長されるであろう。物質とエネルギーを中心とした工業化社会から、いまや私達は情報・知識を多く生産し流通させ消費する情報化社会に入りつつあるといえる。これからの産業社会では、情報産業・知識産業とよばれる部門が大きな地位をしめると予想される。

では、このように進行する情報化社会に陥<sup>かんせい</sup>弊はないだろうか。今日、情報の創造・伝達のサービスシステムは、マスメディアと結び付き歴大なる量の情報を日夜私達に供給している。たしかにマスコミの発達<sup>はつたつ</sup>が情報の独占を排し公開した功績はあるが、情報の送り手と受け手との相互交流を乏しくし、情報が平準化・画一化され受け手側の受動的、没个性的、付和雷同的性向を生み易い。さらに、これらの情報が一方的に操作され、集中的に統制される危険をもはらんでいる。このほか、現在の情報産業は、なお情報の伝達・処理・蓄積技術のいっそうの発達とともに、情報の開発能力向上、質的改良、格差是正、国際化への対応などの課題をかかえているように思われる。

いかに情報化社会といっても、なお情報へのアクセスの至難な領域も存在する。例えば、禅宗に「以心伝心 不立文字」というのがある。禅の奥義<sup>おくぎ</sup>を悟るには、<sup>ふりゆう</sup>經典によらず道元のいう只管打坐<sup>しかんたぎ</sup>に励むしかない。これは体得的知識の貴重さを私達に教える。また、生きた情報源であるすぐれた人物との出会い、人間関係のもつ大切さも変わらないであろう。

多種多様な情報の氾濫する今日、私達が情報公害の被害者とならずに情報化社会を生き抜くには、正しい情報の収集・分析・判断・選択のための能力を涵養する必要がある。それには、大学での基本的学習のうえに、日頃自己啓発に努め知見を磨くよう心掛けなければならない。

最後に、情報を評価するさい、人はそれぞれの価値観を離れて行なうことはできない。しかしいかに価値の多様化する情報化社会が進んでも、生命の尊厳、隣人愛、国際社会の平和などの根元的価値は、われわれ人間の前に永遠の光輝を失うことはないであろう。(経済学)

## 「社会人と読書」

日本住宅公団九州支社 広 田 教 一

2月の中ごろでしたか、西南学院大学図書館のAさんから『原稿依頼』の電話を受けました。

「お元気ですか。」

「はい、相変わらず元気にしていますよ。」

「まあ、それは、結構ですわね。」

などと、話しているうちに、いつのまにか『原稿依頼』を「快諾」するハメになってしまいました。

反省すること、しきりです。

私は、昭和42年3月の卒業ですから、いわゆる社会人となって、まる13年になるわけです。

「社会人と読書」などといわれても、私の場合現在でも読書傾向は、小学生時代とあまり変わっていないようです。変わったといえば、小学生時代、蒲団に腹ばいになって本を読んでいたのが、現在は、腰痛——医者によれば、サラリーマン（社会人）病とか——の関係で、若干、読む姿勢が変わったことぐらいでしょう。

小学生時代、暗い電球の下で「椿説弓張月」や「南総里見八犬伝」の少年版を貪り読んでいたのが、懐かしくおもい出されます。今、改めて、家の本棚を眺めまわしてみますと「国盗り物語」をはじめとして、司馬遼太郎の歴史小説その他随筆・評論のたぐい、それから座談会ものが一番多いようです。本屋で、司馬遼太郎の歴史ものや井上靖の西域ものを、パラパラとめくってみて、さっそく帰りのバスの中で読み始めるときの気持ちは、あの「椿説弓張月」の時と、ちっとも変わりません。こういう読み方を、「楽しむ読書」とでもいうのでしょうか。

しかし、社会人に限らず、「楽しむ読書」ばかりとはいきません。

ある心理学者がいった、「元来、金儲のアイデア、昇進、楽しみ、教育などは、すべて読書によって得られるものである」とまでは、とうていいきませんが、「急速に進歩していく現代の世界で、時代におくれたくないと望むなら、益々真剣に本を読む必要がある」ぐらいの

ことは、念頭においておいて損はないでしょう。

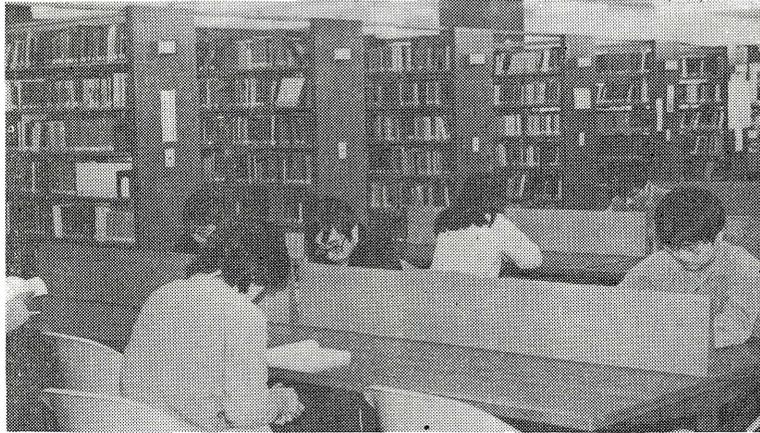
社会人のいわゆる勉強法としては、ある課題なりについて、『食事でも忘れるぐらい、熱中し、とことんまで考える』、『人と議論して、自分の考えを、整理し、体系づけ、具体化していく』、『たびたび、その道の権威とよばれるような人と接して、そのハナシを拝聴する』とかいろいろあるでしょうが、私のような一般的サラリーマンにとっては、やはり、読書が最も基本的かつ手取り早い勉強法といえるでしょう。

私は、住宅公団に入社して以来、10年間「建ちあがった住宅をいかにうまく管理していくか」という部門にいましたが、3年前現在の職場に異動し、今は、「いかにして良い環境のところに立派な住宅を建てていくか」という仕事に携わっています。同じ住宅のこととはいえ、やる仕事は相当違います。異動当初は、10年選手とは名ばかりで、何をどう議論していいのかわからない始末です。その時思ったことは『都市計画』や『住宅計画』の本も少しは読んでおけばよかったということでした。

その後、私なりにこの方面の本も努めて読むようにし、知識だけは読書量に応じてそれなりに増えはしましたが、肝腎の仕事そのものの方は、はかどっているのか、はかどっていないのかという程度の進み具合です。この原稿を書きながら、いろいろと考えていましたら、私の読書がただ単に、「調べる読書」に終わってしまい、一番大事な、「考える読書」にまで至っていなかったことが、なかなか仕事が進まないことの一因になっているような気がしてなりません。

社会人に限らず学生でも主婦でも同じですが、「調べながら考える読書」が大事だと思います。そうすれば、読んだ本の内容をうまく保存することができ、後日の仕事に活かすことができるのではないのでしょうか。もちろん、「楽しむ読書」も並行してつづけた方がよいと思います。（昭和42年商学部卒業・船越ゼミ）

## 「図書館の思い出」



法学部 80期 高田 光邦

経済学部 80期 松浦 かおる

図書館通いを始めてから2年程が過ぎた。早いものだ。以前は図書館の2階以上には入ったことがなかった。そんな私が図書館へ通い始めるようになったのは、自分の職業を決め、勉強をする決心をしてからである。しかし、実際に勉強を始めたのは、それから数カ月後だった。

図書館とは、勉強の虫達が難しい書物と睨み合っている所のように思われがちだが、そんな図書館で、私が面白いと思った事について書いてみたい。

それは、常連の間にある奇妙な仲間意識である。例えば、常連の席が暗黙の了解で決まっている事である。もし、誰かが自分の席に座っていると、常連の指定席以外の席を探すのである。常連の席が誰かに占領されていると、彼が気の毒に思えると同時に、それに気付いた時の彼の反応に興味を覚えるのである。また、その席が終日空いていたりすると、どうしたのかと気使う事もある。

こう思うのは、私だけではあるまい。他の常連もそう思うのではなからうか。それは常連ゆえに持つ奇妙な仲間意識の為ではなからうか。私は敢えて奇妙という語を付けた。何故なら、彼等は、一年間もほとんど毎日顔を合わせていながら、話をした事がないからである。

この奇妙な仲間意識は、一面常連の互いの励みになっているようだ。勉強嫌いの私が2年程も図書館へ通い続ける事ができたのも、この奇妙な仲間意識のおかげではなかったらうか。私は、こんな常連に感謝したい。

図書館の思い出と言えば、2、3年前、何号館だったか爆弾を仕掛けたという電話があって、けたたましくサイレンが鳴り渡り、拡声器が付近の学生の避難を呼びかけた事がある。私は図書館なんかで死にたくないと思ってあさましく荷物をまとめましたが、まわりは皆平然と勉強を続けていた。それにしても、あの時の、あの外のざわめきと対照的な館内の静けさは、私にはとても印象深かった。

有事の際ですらこうなのだから、平素の図書館の静けさは言うまでもない。私が人の少ない時に行くせいもあるが、ヒールの音や、時にはページをめくる音さえも気の毒なくらい静かなのである。ともすると居場所を失ってしまいそうな雑然としたキャンパスのなかで、この静けさは私にほっと一息つかせてくれると同時に、学生なんだなあという実感を思い出させてくれた。

ところで、私は経済なので席はたいている階にとったが、ただ散歩するのが好きで、あらゆる分野の本棚のまわりを歩きまわり、いろんな本と出会った。そして本を手にする時はいつも貸出カードにも目を通した。そこにAをくださった教授や卒業された先輩の名を見つけては懐しく思い、また日頃内面まで見せ合うことのないクラスメート達が、意外と高尚な本を借出しているのを発見するのも楽しかった。最後に、私には後輩の皆さんに誇れるような知的な思い出は一つもないが、図書館が皆さんの人生の良き拠所となることを願ってやまない。

レファレンス事例 ②

参 考 係

最近利用者から寄せられた参考質問のうちから、2・3の事例を紹介して、他の利用者の参考に供したい。

〔質問1〕 本学商学部教授後藤泰二先生の、学位授与年月日と、その対象となった論文名を知りたい。

回答例：「日本博士学位論文索引」一人文学・社会科学篇一（日本プランニング・サービス・センター）昭53年6月の巻末に個人名索引がついているので引くと、本文の記載ページがわかる。授与年月日は、昭和47年10月10日で、対象論文は「株式会社の経済理論」で九州大学経済学博士を授与されていることがわかる。

なお博士学位論文の閲覧は授与大学の図書館で閲覧はできるが、複写の場合は、著者の承諾書が必要である。

〔質問2〕 福岡市の昭和50年の消費者物価指数を100とした場合の昭和40年、45年、53年、54年の指数を知りたい。

回答例：福岡市の各種の過去からの統計を調査する場合は、「福岡市統計書」「福岡県統計年鑑」がよいが、全国的な統計調査に用いる資料として「日本統計年鑑」が役立つ。これには全国平均と同時に、県庁所在都市の指数も出ている。これで調べてみると

昭和40年	44.3	（総合、昭54年について
45年	58.8	は年平均の指数が未だ出
50年	100.0	ていなかったので、「ふ
53年	123.4	くおかの統計」昭55年2
54年	128.7	月号を使用）

〔質問3〕 1910年代後半アメリカの大統領だったWoodrow Wilson の第2次組閣のときの国防長官の名前を知りたい。

回答例：いろんなものに出ているが、ホワイトハウス入りした人について調べるときには

Biographical Directory of the American Congress, 1774~1961. ( U. S. Government Printing Office, 1961)

が役立つ。それを見ると、現在の国防長官の名称は Secretary of Defence となっているが、その当時として該当するものとして、Secretary of War ( Newton D. Baker ) と Secretary of the Navy ( Josephus Daniels ) の2つがありどちらがよいかわからなかったので両方を提供した。

同じものに Biographical Directory of the United States Executive Branch, 1774~1971. ( Greenwood, 1971 ) がある。

〔質問4〕 世界各国の国名を2~3文字で略記したいのだが、世界共通の標準的な略し方を記載したものが何かあるだろうか。

回答例：国連の経済社会局統計課発行の United Nations Standard Country or Area Code for Statistical Use. [ Department of Economic and Social Affairs, Statistical Papers, Ser. M, No.49, Rev.1] [ST/ESA/STAT/Ser. M/49/Rev.1] を見ると Standard Abbreviation として8文字と12文字で表わす方法と、ISO Alphabetical Code として2文字と3文字での表記のしかたが載っている。

ちなみにアフガニスタン、日本、ソ連、英国、米国の表わしかたは下記の通りである。

〔質問4〕の回答例		United Nations Numerical Code for Country or Area			
Numerical Code	Country or Area	Standard Abbreviation		ISO Alphabetical Code	
		8 Characters	12 Characters	Alpha-2	Alpha-3
004	Afghanistan	AFGHNSTN	AFGHANISTAN	AF	AFG
392	Japan	JAPAN	JAPAN	JP	JPN
810	Union of Soviet Socialist Republic	USSR	USSR	SU	SUN
826	United Kingdom	UNTD. KGD	UNTD. KINGDOM	GB	GBR
840	United States of America	U. S. AMER	UNTD STATES	US	USA

## 文献検索の苦勞 (2)

商学部教授 小 森 俊 介

文献検索の苦勞も近年、米国の関係専門雑誌をみると、以前とは質的に変化してきているようである。マーケティングの領域にかぎっても、Critical Reviewを除いて、論文末尾の参考文献が相当に多くなってきている。100篇を越える論文も珍しくない。

これは米国の大学図書館における文献検索施設の整備、コンピューターの利用が普及してきた結果である。問題の枠組が確定すると、関連の課題にかかわる参考文献がコンピューター操作によってライン・プリンターに次々と打ち出されてくる。このなかから関連の度合いにしたがって取捨選択できるのである。

文献の整理さえ適確に行われておれば、あるいはそういう領域さえ選定すれば、文献検索の苦勞のほとんどは無くなるわけである。

しかしそれでも不十分な場合は生じる。

最近のマーケティング論では、関連の専門分野の雑誌論文は、提出されてから1~2年を経過している。それで満足できる問題であればよい。がしかし領域がまだ開拓期にあたるようなところになると駄目である。自前の文献検索をせねばならない。

例えば、GNPに占める第三次産業の比率が50~60%あるいはそれ以上に達する日本、米国、英国では Service Marketing が考えられるようになった。マーケティング論研究の視点から、その発展方向は、まだ定かでない。しかし実際には研究の対象となる事態が多数出現してきている。しかもそれらが本来の研究対象である商品流通に大きく貢献している。こういうときの文献検索はまだ論文の域に達さない Research Report に及ぶ。これは研究機関がさらに検討を加えるためにタイプ印刷したものをコピーにかけて綴じた体裁をしている。市販のルートをうまくつかんでいないと入手できない。価格も高い。

それ以前に基本となる論文末尾の参考文献から関連の研究機関と研究者の研究内容に目算をつけて、大体の研究の流れを自分なりに持っておく必要がある。

このように研究上の文献検索はその文献が形成されてきた過程をも示す参考文献を含めた思考体系の確認作業である。

余談ながら卒業論文作成にはいる学生諸君は、この事を銘記してもらいたい。注のつけ方や参考文献の書き方にも一定のルールがある。この点を何回説明していても、いざ清書になると全々わかっていない学生が多い。彼等は卒業論文を作成する資格を欠いていると云えよう。

このようにルールにしたがって作成されているところにこそ学術論文の検索作業の価値がある。大学院時代、ある大学の助教授になっている先輩から修士論文の作成指導をうけていたときのことである。これまたある大学の論集のなかの論文の注を指しながら、「この注のつけ方は素人の証拠である。玄人の仕事ではない。こういう論文をまず読まないことだ」と諭してくれた。その注はマルクスの資本論の第何巻かであった。その先輩はマルクス主義経済学の専攻ではなかったが、その厳しい学問態度に強く印象づけられたものである。

ところが近年、自分の研究が既存の学問分野の境界に踏み込んだとき、この態度が大いに役立った。門外漢として接するから、その分野の理論的伝統などほとんど無知である。それでも必要に迫られると、いろいろと著書論文をみななければならない。そこで本格的な研究の成果か否かを判断するときに、注や参考文献の並べ方を視るのである。それはたんに綿密・克明さだけではない。内容展開と一体になったハーモニーというものである。

マーケティング論研究は関連諸科学の成果を貪欲に取り入れながら発展してきた。ところが最近基本的問題の原点への回帰がみられるようになった。高度な分析技法を使用した研究成果を研究の原点から再評価しようとする論文がみられるようになった。こういう論文に掲載される参考文献こそ、「本モノ」の研究成果と云えよう。換言すれば、それだけ古典性が与えられているのである。マーケティング現象にたいし可能なかぎりイデオロギーや特定の因果律から自由な仮定によってデータを解析し、そこで検出された現象の規則性を継承しようというのがその内容となっている。

こうしてみると文献の探索も文献検索の苦勞ではあろうが、研究成果として「本モノ」か否かを見極めることこそ真の苦勞ではなからうか。(マーケティング論)

## ☆ お知らせ・ニュース・NEWS ☆

## 〈図書館委員会〉

- 昭和54年11月16日 ① 55年度図書館予算について  
② 54年度私大助成事後処理について 他

## 〈研修・出張〉

- 54年度福岡県・佐賀県大学図書館協議会  
第2回福岡地区研究会 於 第一経済大学  
54.11.8 品川, 板谷司書補出席
- 専門図書館九州地区協議会  
第11回資料研修会 於 九州経済調査協会  
55.1.29 今永課長補佐出席
- 54年度福岡県・佐賀県大学図書館協議会  
第3回福岡地区研究会 於 第一経済大学  
55.2.22 倉光係長出席

## 〈ゲーテンベルク聖書(Die Gutenberg-bibel)の展示〉

ゲーテンベルク聖書は、活字によって印刷された世界最初の本で、ラテン語の聖書です。1450年から1455年にかけて、ドイツのマインツで、ゲーテンベルク (Johannes Gutenberg, 1394/99~1468) によって印刷されました。42行聖書といわれるのは、縦割り2段組の1段が、42行になっているからです。総ページ数は1,282ページ、約100点の細密画が描かれ、総革製・真鍮金具付のもので、世界で最も美しい本と言われています。完本は現在世界に22部しか残っていません。価格は約5億円。

図書館に展示しているのは、原本を完全復刻したもので、ベルリンの国立プロイセン文化財図書館の蔵書が選ばれました。また、表紙は、現在、フルダのヘッセン州立図書館に収められているもの(フルダ表紙)に準拠しています。ドイツのイデイオン社から出版された限定本で、895部のうちの一書です。(本学のは329の番号がつけられています。)

本書出版にあたって会得された活字印刷技術は、後年マルチン・ルターがドイツ語の聖書を出版する際に、有力な助けとなり、宗教改革を可能にすることができました。このように、ゲーテンベルク聖書の出版は、世界キリスト教史上、極めて意義深いものと言えましょう。

## 告知板

## ○春休み中の開館予定

2月7日(木)~4月10日(木)の春休み中も、次の場合を除き平常通り9時~21時まで開館します。但し、学習室は閉室します。

2月8日(金)~2月12日(火)は入学試験のため閉館。

3月11日(火)~3月18日(火)は在庫調査のため2階以上の閲覧室を閉室し、学習室(1階)のみ開室します。なお貸出図書の返却は受けません。

## ○春休み長期貸出

1月28日(月)~4月22日(火)

(但し、卒業予定者は2月末日まで)

対象および冊数	学部学生	} 5冊以内
	専攻科生	
	留学生別科生	10冊以内
	大学院生	20冊以内

## ○卒業後の図書館利用の手続き

本学卒業生は、社会に出てからも職務上の研究・調査など、あるいは自己の教養・知識向上のため本学図書館を利用することができます。利用希望者は特別利用者規則に従ってご利用ください。

特別利用者証発行については、次のものを提出しなければなりません。

- |                 |      |
|-----------------|------|
| ① 特別利用許可願(本館備付) | 1通   |
| ② 卒業証明書         | 1通   |
| ③ 証明書用写真(3×4cm) | 1葉   |
| ④ 印鑑            |      |
| ⑤ 手続料金(1カ月)     | 100円 |

※入館、貸出手続きは在学中と変わりませんが、貸出冊数および期間は年間(休暇中を含め)を通じて3冊、11日以内です。

## 〈在庫調査の実施〉

3月11日から18日まで、本館所蔵の約32万冊の図書全部について、1冊1冊在庫の確認をした。この間利用者の皆様にはご迷惑をおかけしました。

昭和54年2月～昭和54年12月 (アルファベット順)

## I. 和漢書類

愛知学院大学より

愛知学院大学・愛知学院短期大学研究業績総覧 1979

赤坂印刷より

福岡県教育百年史 第4巻

阿久沢乗寛氏より

円周率は有理数

荒川利夫氏より

世界各国の人情劇 他148冊

別府大学より

別府大学学長 佐藤義詮先生 古稀記念論集 2部

防衛庁より

防衛年鑑 1979年版 他1冊

朝鮮国立中央図書館より

独裁者は裁かれる

中小企業信用保険公庫より

中小企業信用保険公庫二十年史

中小企業退職金共済事業団より

第19回事業年報 昭和52年度

クリーン ジャパン センターより

懸賞論文入選作品集 昭和53年度

大学基準協会より

大学一覧 昭和53年度

第二東京弁護士会より

アメリカ法曹協会 弁護士責任規範

大東学園より

いのちあらたに

藤瀬義行氏より

新しい人間像を求めて 他38冊

富士短期大学より

学園三十五年史

福岡県より

福岡県貿易統計 昭和53年版 他8冊

福岡県文化会館より

福岡県文化会館所蔵 郷土関係雑誌記事索引

他2冊

福岡県社会福祉協議会より

在宅心身障害児者の実態

福岡市より

福岡の歴史 他2冊

福岡市立歴史資料館より

土器 他2冊

福岡証券取引所より

福岡証券取引所30年史

福島県より

福島県勢要覧 昭和54年版

古川卓萬氏より

アメリカ革命史序説 他42冊

釜山大学校より

論文集 第26輯 人文社会科学篇及自然科学篇

外務省より

わが外交の近況 昭和54年版

行政管理庁より

諸外国における統計の制度と運営 (その6)

白鶴酒造より

白鶴古文書 史料集

橋本静子氏より

娘巡礼記

八田 薫氏より

財政学

一橋メディア・レップより

読者は生活者である 他1冊

法政大学より

法律扶助・訴訟費用保険

井田雄平氏より

京都市中央卸売市場第一市場 開設50周年記念誌

池田哲郎氏より

情報システムへの道

今泉力蔵教授業績顕彰記念会より

日本産化石甲殻類とくに貝甲類および軟甲類の分類

石井記念友愛社より

石井十次日誌 (明治41年)

糸園辰雄氏より

現代商業の理論と政策 3部

自由民主党より

80年代をひらく

会計検査院より

昭和52年度の決算と検査

韓国文化院より

今日の韓国 1979年

- 関西大学より  
 現代インフレーションの研究 他3冊  
 経済企画庁より  
 国民経済計算年報 昭和54年版 他2冊  
 建設省より  
 海岸統計 昭和53年版  
 金融経済研究所より  
 物価史 第2巻  
 北九州市立中央図書館より  
 火野葦平関係資料目録  
 国学院大学より  
 国学院大学八十五年史 史料篇  
 国立公文書館より  
 公文録目録 第2  
 国立国会図書館より  
 国立国会図書館三十年史 他11冊  
 国立国語研究所より  
 国立国語研究所三十年のあゆみ  
 国立民族学博物館より  
 国立民族学博物館研究報告 第3巻3号～第4巻2号  
 国際電信電話より  
 国際電気通信関係法制の研究 他1冊  
 甲南学園より  
 甲南学園の60年  
 公正取引委員会より  
 公正取引委員会年次報告 昭和52年度  
 交通統計研究所より  
 交通統計図説 1978  
 熊本商科大学より  
 現代経済学の諸問題 他1冊  
 久留米市より  
 目で見る久留米の歴史  
 京都大学より  
 知識人層と社会  
 京都府労働経済研究所より  
 京都府下における求職者実態調査結果報告書  
 昭和53年5月調査  
 京都商工会議所より  
 京都府下におけるモデル退職金調査 昭和53年度  
 九州文化史研究所より  
 九州文化史研究所所蔵古文書目録 10～12  
 九州大学より  
 九州大学法学部資料目録 和文編 1979年版  
 他1冊  
 九州経済調査協会より  
 地域経済と雇用問題  
 九州歴史資料館より  
 九州歴史資料館研究論集 2・3  
 九州・山口経済連合会より  
 200カイリ時代の西日本水産業  
 マックリモン, メリー氏より  
 三つの物語とうた  
 松本明重氏より  
 宗教法人法概要  
 松下電器産業より  
 人を活かす経営 他1冊  
 明治学院大学より  
 ドイツ福音主義教会法研究  
 南九州財務局より  
 経済統計年報 昭和53年版  
 宮城県より  
 宮城県経済の構造 第8集  
 文部省より  
 資料臨時教育会議 第1集 総覧  
 名古屋大学より  
 高木家文書目録 巻一・二  
 中村栄子氏より  
 言葉遊び  
 中尾英俊氏より  
 出水郡誌 他1冊  
 南山大学より  
 経営学ガイドブック  
 日本チェーンストア協会より  
 日本チェーンストア協会名鑑 1978年  
 日本大学より  
 わが国企業の経営動向分析  
 日本不動産研究所より  
 20年の歩み  
 日本銀行より  
 貯蓄に関する世論調査 昭和54年  
 日本放送協会福岡放送局より  
 NHK年鑑 1979 他1冊  
 日本ITU協会より  
 ITU小史  
 日本自転車振興会より  
 競輪三十年史  
 日本化学工業協会より  
 日本の化学工業戦後三十年のあゆみ

- 日本科学協会より  
オニヒトデの対策研究
- 日本国有鉄道より  
日本国有鉄道監査報告書 昭和53年度
- 日本民主同志会本部より  
限りなき一つの道
- 日本産業巡航見本市協会より  
第13次巡航見本市報告書
- 日本産業教育研究会より  
ソ連の教育
- 日本石油より  
石油統計表 53年版
- 日本証券経済研究所より  
株式投資収益率 1978 他1冊
- 日本輸出入銀行より  
アジア諸国の外資受入制度
- 西原忠毅氏より  
音声と意味 他1冊
- 丹羽記念会より  
丹羽保次郎
- 大蔵財政調査会より  
共通一次と入試歴社会
- 大曲(元)判事の遺族より  
判例遺言法 他775冊
- 大阪府中小企業団体中央会より  
大阪府における中小企業労働事情実態調査結果  
報告書 昭和53年度
- 大阪府立中之島図書館より  
大阪本屋仲間記録 第4巻
- 大阪経済大学より  
英国不法行為法論
- 大阪市より  
第66回大阪市統計書 昭和53年版
- パラント著作刊行会より  
個人主義社会学
- 労働省より  
失業保険事業年報 昭和49年～53年度
- 龍谷大学より  
宗教法研究 第1輯
- 三康文化研究所より  
三康図書館蔵書目録 国書編
- 製粉振興会より  
小麦粉の話
- 生命保険協会より  
生命保険協会70年史 他2冊
- 聖心学園より  
東京保育専門学校五十年史
- 世界救世教外事対策委員会より  
自然農法私考
- 関谷定夫氏より  
図説：旧約聖書の考古学  
専修大学より  
今村訴訟記録 第3巻
- 社会通信教育協会より  
改善に関する調査研究報告書
- 島内龍起氏より  
カント実践理性の能力の検討 上巻
- 職業指導学国際会議事務局より  
職業指導学国際会議 (報告書)
- 食糧庁より  
異動人口調査結果表 昭和53米穀年度
- 淑徳大学より  
仏教と社会福祉のあいだ
- 創価学会より  
悠久の大地に立って 他8冊
- 高橋達男氏追悼事業委員会より  
日本資本主義と電信電話産業 他1冊
- 谷岡学園より  
谷岡学園五十年史
- 天理教教会本部より  
天理教年鑑 昭和54年 2部
- 東京海上火災保険より  
東京海上火災保険株式会社百年史 (上)
- 東京証券取引所より  
東証要覧 昭和54年
- 東京都公文書館より  
東京百年史 別巻
- 東京都立大学より  
花房義質関係文書目録
- 津末 安氏より  
現代詩と個性 他10冊
- 早稲田大学より  
早稲田大学図書館文書目録 2
- 山田雅子氏より  
純女学徒隊殉難の記録
- 山内邦臣氏より  
アメリカ文学

読売新聞西部本社より

農業と工業の複合的發展による定住構想の確立  
在九州国文資料影印叢書刊行会より

在九州国文資料影印叢書 1~12  
全関西私立大学国庫補助促進同盟より  
同盟15年の歩み

全国農業協同組合中央会より  
協同組合および農協に関する文献の目録  
(1977年)

全国商品取引所連合会より  
商品取引所年報 1978 他3冊

## II. 洋書類

アメリカンセンターより  
Selected courses for the study of American  
society and culture.

芦屋大学より  
Final report on the International Conference  
on Vocational Guidance.

カナダ大使館より  
Canada handbook.

藤瀬義行氏より  
The crying sisters.

古川卓萬氏より  
Economic mind in American civilization.  
Vols 1-2.

Grant, David 氏より  
The preacher and his people.

放送文化基金より  
Symposium on the Cultural Role of Broad-  
casting, 1978.

Indiana University Linguistic Club より  
Syntactic theory, 1.

国立国会図書館より  
Union catalog of foreign books, 1976. Pts.  
1-2.

小松陽子氏より  
Rue des boutiques obscures.

京都大学より  
Katalog der Friedrich Thaner Bibliothek  
in der juristischen Fakultät der ... 他2冊

京都外国語大学より  
Catalogue des livres français, 1.

九州大学より  
Referential catalogue for legal and politi-  
cal science in the Law Library of Kyushu  
University. Foreign materials, 1977. 他2冊

九州芸術工科大学より  
Catalogue of the Lloyd Morgan architectu-  
ral collection.

中村栄子氏より  
Jean Cocteau et André Gide. 他1冊

西原忠毅氏より  
An experimental study of intonation in  
human speech. 他1冊

西尾陽太郎氏より  
Overseas Japanese studies institutions and  
students.

大阪市立大学より  
Rural-urban migration and pattern of  
employment in Pakistan.

Ouaghebeur, Marc 氏より  
Chavée, Achille: Oeuvre. Tom. 2 他30冊

故・進藤誠一氏より  
Dictionnaire des difficultés de la langue  
française. 他1冊

創価学会より  
On the Japanese classics. 他1冊

末松 壽氏より  
Méthodes chez Pascal.

多久和新爾氏より  
The American dream and self-examination.  
他1冊

津末 安氏より  
The personal history and experience of  
David Copperfield. 他10冊

輸出繊維統計協会より  
Textile exports of Japan, 1978.

Zeit im Bild Dresden より  
Committed to the cause of peace.

全日本仏教会より  
Proceedings of the 12th General Conference  
of the World Fellowship of Buddhists. 他1冊